

自己評価

進路指導部教育目標	生徒一人一人が、自己肯定感と自信をもち、卒業後、地域社会の一員として、企業就労することで主体的に地域社会に貢献できる生徒を育てる。
-----------	---

評価する領域・分野	進路指導	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の就労意識は高まりつつあるが、早い段階から企業就労に向けて目標を明確化し、企業の求める主体性や労働意欲の向上が必要である。 進路指導に関する情報提供に関する項目で「あてはまる」の回答が、生徒保護者ともに7割を超えた。さらに生徒や保護者に実態に合った具体的な進路に関する情報提供を行う。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 職業に関する知識・技能を身に付け、勤労観・職業観を構成し、社会性を高める人間力を育成する。 企業就労に向けて、自らの課題を明確にし、着実に取り組む生徒の育成をする。 企業向け学校見学会やネットワーク会議等を開催し、障がい者雇用に対する理解の促進とノウハウの提供を行う。 進路情報の発信および各種進路研修会の参加を促進し、保護者の進路意識の高揚を図る。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の重要性を徹底する進路研修を実施し、実践に生かす。 個の実態を把握し的確な指導を行うとともに、関係機関と連携した職場開拓を行う。 	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 実態に合った事業所での企業内実習や現場実習、各コースでの外部実習を実施。 事業所や関係機関を対象とした学校見学会や就労支援ネットワーク会議を実施。 積極的な職場開拓を実施。 より雇用ニーズに応じた専門コース等授業の在り方や、人間力向上についての指導助言。 保護者向け進路説明会や進路だより等による情報提供。進路懇談会の開催。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 企業内実習、現場実習における評価。(事業所側の評価、自己評価) 保護者等を対象としたアンケートにおける回答。 ・生徒の就労意識の程度。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 専門コース関連業種の企業における企業内実習の実施。巡回指導と情報交換。 第Ⅰ期(全46事業所) 第Ⅱ期(全44事業所) 第Ⅲ期(全47事業所実施予定) 現場実習の実施。 2年生 第1回(全43事業所) 第2回(全42事業所) 3年生 第1回(全41事業所) 第2回(全40事業所) 3年生進路状況(予定) 企業就労34名 福祉就労(A型、B型、就労移行)7名 事業所や関係機関を対象とした学校見学会、就労支援ネットワーク会議を実施。 職場開拓。(70事業所以上) ・関係機関との連携。 ・ハローワーク見学。 保護者向け進路説明会(2回)、関係機関職員による講話、「先輩と語る会」、進路だよりの定期発行、進路指導室の整備等の情報提供。 	
評価の視点		評価
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の勤労観や職業観を高めることにつなげることができたか。 当校の教育や障がい者に対する理解を深め、実習に協力していただける事業所を拡大できたか。 保護者や地域に対して、進路に関する情報提供が適切にできたか。 		A (B) C D
成果・課題		総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○企業内実習では、就労には体力や集中力が必要であると体得でき、自己適性を考察できた。現場実習では、2週間継続することで就労の厳しさと達成感が、自信と就労意欲の向上につながった。 ○学校見学会や実習等を通し、当校の教育活動や生徒の実態を知っていただくことができた。その中で、理解を得て初めての障がい者雇用をしてくださる事業所も出てきた。 ○情報提供については、進路説明会開催や進路だより発行等を計画的に実施することができた。 ▲進路決定が遅れた生徒について、進路懇談をさらに充実、保護者との連携を密にする必要がある。 ▲就労への意識をより高めるような工夫をした情報提供を行う必要がある。 		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・軽度知的障がいの生徒を対象とした当校としてのキャリア教育の方針を再確認し、発達段階に応じた具体的な目標や指導内容を設定し、組織的に共通理解のもとに実践していく。 ・生徒の居住地近郊における実習先の開拓に一層力を入れる。 ・関係機関とさらなる連携を図り、卒業生のフォローアップを行う。 ・計画的な進路研修会開催や進路だより発行等を実施し、就労への意欲を高めるような情報提供を行う。 	

学校関係者評価 (令和2年2月27日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会や就労支援ネットワーク会議は、企業に学校を知っていただく良い機会。企業側は、これからの障がい者雇用について興味・関心をもっている。こちらからの発信が大事であり、継続的に行ってほしい。
-----------	---

